

[共同研究]

— マンガに見る女子中高生の話しことば —

遠藤 織枝      片桐 須美子  
小林 美恵子      韓      先 熙

—はじめに—

—昨年・昨年と2年にわたって行なった、テレビ・ラジオのインタビュー番組における女性・男性の話しことばの調査（ことば10号・1989 ことば11号・1990に所収）に引き続き、本年は少年・少女マンガにおける若い世代の話しことばをとりあげる。話しことばに性差はどのように現れるのか、ということが我々の3ヶ年の調査に際しての一貫した問題意識である。

日本語の特質の一つとして「女性語」の存在が強調されることが多い。—改訂された「広辞苑」四版の「日本語」の項にも「…方言の差とともに地位、職業、男女による違いも著しい…」と記されている。—しかし、我々は、「女性語」が実態を明らかにされないまま、あるいは歴史的に古い事実を現実のものとして、そのまま援用して喧伝されることに疑念をもつものとして、日本語の性差がどのような実態なのかを掘りおこしたいと考える。

一般に男性の話しぶりは力強く支配的で主張が強く、率直、で権威を持ちたいと願う。女性の話しぶりは、柔らかで協調的でえん曲的であるが、つまらぬ話題に熱中し繰り返しが多いとされる。こうした話し方の違いが語彙の選択にも見られるわけである。（堀井令以知『講座日本語と日本語教育・第1巻 日本語要説』1989 明治書院）

という説に代表されるような、論拠のさだかでない、性差を前提とするステレオタイプな話しことば観は、インタビュー番組による調査においてはほぼ完全に否定された。インタビュアーや見えざる観客に対して自己を語るという同一の談話状況の下では、自称など一部の習慣的に選ばれる語を除いては男性であれ、女性であれ、有効な伝達のために選ぶことばに差異はないというのが我々の結論である。

ところで少女の話しことばの男性語化の傾向がしばしば言われる。後に全文を

紹介する投書（資料1）は、高崎みどりが『模索期の女性語』（ことば9号・1988）でとり上げたものである。高崎はこの投書文における女子中学生のことばを、「女性語に対する若い世代の批判的行動と見ることができ」「生涯で最も活発な言語活動を行なう10代の若者たちが、その本能的な発言として、あるいは、直観的に選んだ最も適切な手段として、男言葉を選んだものであろう」と論じている。この論にしたがえば「女子中学生の男言葉」は、インタビュー番組において旧来的な「女性語」を用いず、「最も適切な手段」としての中性化されたことばを選んでいる女性たちの意識へと発展していくものであるということになるのではないか。本調査ではそのような視点にたって少女——女子中高生の話しことばが、現実にはどのようなものなのか調べてみたいと考えた。

資料として選んだのは女子中高生を登場人物として、おもに同じ若い年代の男女を読者とする、いわゆる少年・少女マンガである。マンガの話しことばは作者によって考えだされたフィクションの会話であり、実際に発せられた話しことばではない。したがって話しことばの資料としてみるには無理もある。しかし現実に話された日常会話などについて、検討、分析に耐える量や質を確保することは非常にむずかしく、今回は断念せざるを得なかった。マンガの中の会話が実際の話しことばの代用として十分なものと言えないことはわきまえたうえで、今回とりあげたようなマンガの作者に読者と比較的年齢の近い若い人々が多いこと、書かれた作品が中高生の読者たちにも抵抗なく受け入れられ、読まれているという事実から、資料としてある程度の妥当性を持つものと考えている。なお、樺島忠夫氏もマンガにおける語彙調査を行ない、感動詞の使用、漢語の使用、品詞比率など、語彙的に日常会話と大差がないという結論を得、マンガのことばは日常会話の姿を反映していると論じておられる。（『少年少女マンガ週刊誌の言葉』）日本語のスタイルブック 1979 大修館書店）

今回、調査の対象としたのは、1991年3～4月に発刊された、読者対象の中心が中高生である別冊・月刊マンガ雑誌に掲載されたマンガ62篇（いわゆる少女マンガ45篇・少年マンガ17篇）に登場する女子中高生のセリフ（独白

・ナレーション等を含む)である。対象としたマンガの掲載紙名・題名・作者名は後に掲げる。(資料2)

資料は次のように扱った。

原則的に1つの「吹き出し」を談話の1単位として記録する。但し、吹き出しが2つ以上にわたっていても明らかに1文として見ることができ、対者によるあいづちなどの入っていないものについては1単位として記録した。また吹き出しに入っていない独白——心中思惟とでもいうべき例が圧倒的に多い——は、コマを単位として吹き出しと同様に扱った。なお手紙、歌詞などの引用からだけなるセリフ・独白や擬音語・擬態語は対象からはずした。また特に少女マンガには吹き出しの外に補足のような形で、そのセリフが発せられたときの裏の心情や時には作者の感想などを述べたものが見られるが、このようなものについても対象とはしなかった。一篇のマンガの長短はさまざまであるが、作者の意識などによる偏りをできる限り避けるため一篇のマンガについては150単位を上限とし、総数4627単位の談話を記録し、調査の対象とした。以上については実際のマンガと、それを調査用に記録したもの(資料3)を掲げるので、参照されたい。

このような資料について、次のような項目にしたがって調査を行った。

- ① 談話の文末の表現について
- ② 自称・対称・他称および敬語表現
- ③ 縮約形について
- ④ 俗語・単語・その他注目すべき表現について

①～③は、昨年、一昨年のインタビュー番組における調査との比較を念頭において設定した。④については特に若者特有の表現として①～③で測りきれないものについて捕捉していくこととした。執筆については①遠藤織枝、②小林美恵子、③韓先熙、④片桐須美子が担当し、小林が整理統一を行なった。



(対象マンガ 62篇)

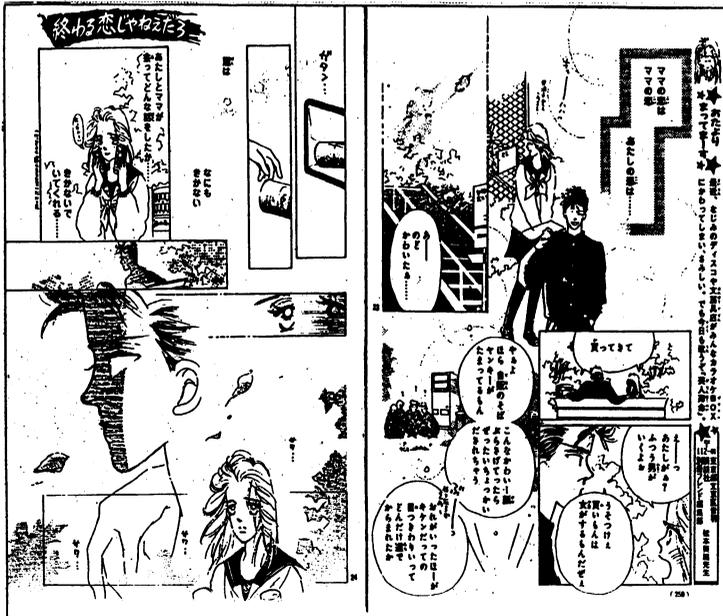
01. 027	移香坂野荊棘寮	亜 月 裕
01. 028	今日もいい天気	宮 川 夕 美
02. 029	ビードロの星座たち	前 田 恵津子
02. 030	はじめちゃんが一番!	渡 辺 多恵子
02. 031	ハーフ	恒 吉 民 子
02. 033	バージンブルー	森 丘 茉 莉
02. 034	当世幽霊気質	私 尾 カヲル
02. 035	抱きしめてROSE	吉 原 由 紀
03. 045	D i e r	伊 藤 ゆ う
03. 046	ジーザス・クライスト	上 田 美 和
03. 047	見エスギ chatte コマルノ	池 沢 理 美
03. 048	キケンな日曜日	赤 羽 みちえ
03. 049	終わる恋じゃねえだろ	松 本 美 緒
03. 050	K i s s M e K i s s M e	渡 辺 直 美
03. 051	ハートボイルドに乾杯	小 野 弥 夢
03. 052	ダイヤモンド	湊 よりこ
04. 053	鮮やかな天使たち	青 沼 貴 子
04. 054	サクラ・サクラ	糸 井 美 和
04. 056	春の嵐	高 橋 由佳里
04. 057	その頬ににふれても	麻 生 歩
04. 058	冷たくされたい	中 里 り え
04. 059	みつめてごらん	緒 形 も り
04. 060	カレについて	たかや なぎさ
04. 061	恋しくて	杏 崎 もりか
04. 062	いちばんのキミ	朝 香 の ん
05. 063	天上の汚れた手	杜 真 琴
05. 064	眠る水魚	杜 真 琴
05. 065	N O R ・ M A L	杜 真 琴

05. 067	M I X	宏 橋 昌 水
05. 068	今日もしあわせ	柳 原 望
05. 069	多感なウェイブ	山 吹 のりこ
05. 070	T W I N S	麻 生 美 琴
05. 071	媚薬のススメ	羽 月 ち ほ
06. 072	傾斜角度	やまざき貴 子
06. 073	おそろしくて言えない	桑 田 乃梨子
06. 074	カノンの法則	徳 田 理 映
06. 075	R E D	なかじ 有 紀
06. 076	ちえっ	落 合 千 代
06. 078	D e a r	たかみ はやお
07. 098	子供はなんでも知っている パート5	岩 館 真理子
07. 099	点点点	九 月 乃梨子
07. 100	あらし	逢 坂 みえこ
07. 104	恋人達の時刻	梨 本 有 美
07. 106	キケンな関係	東 田 碧 生
07. 107	チープスリル	くらもちふさこ
07. 108	星に願いを	くらもちふさこ
08. 225	悶々MONJIRO	山 口 かつみ
08. 226	スチャラカ!はいすくーるダーリン	うちやましゅうぞう
08. 230	好きよ!下条くん	小 幡 哲 弘
08. 231	毎度ラーメン屋です	三 枝 義 浩
09. 232	ラインを越えて	林 崎 文 博
09. 234	ウイニングタッチ	神 代 光
09. 236	戦国甲子園	桐 山 光 侍
09. 240	ルパン三四郎	春風邪 さんた
09. 242	ゴルビーの息子	岡 田 征 司
10. 245	ライバル	柴 山 薫
10. 248	ふたば君チェンジ♡	あ ろ ひろし

10.249	アクトレス	山田謙二
11.254	BROTHERS	田島昭宇
11.255	ヤンキー	山本よしふみ
12.290	マニアル	大貫健一
12.291	JUNE-BRIDE	福島敏信

(注)・前2ケタが雑誌ナンバー、後3ケタが作品ナンバーである。各論文の引用についてはすべて作品ナンバーのみで記してある。

(資料3) 03-049



(記録)

- 100 (モノローグ) ママの恋はママの恋／あたしの恋は……
- 100 あー のどがかわいたなぁ…
- 101 (友人・憲) 買ってきて

101 えーっあたしがぁ？／ふつう男がいくよお  
101 やぁよ／ほら自販のそばヤンキーがたまってるもん  
／こんなかわいい顔ぶらさげてったら、ぜったいち  
よっかいだされちゃう  
100 憲は なにもきかない  
100 あたしとママが会ってどんな話をしたか……きかな  
いでいてくれる……

(注)・番号は上1ケタは、話者(美吹・高校生)を示す。下2ケタは対  
者。00はモノログである。記録していないことば、擬音語などは  
調査の対象とはしなかった。

・「あー のどがかわいたぁ…」 「買ってきて」など他者と同時に  
発話されたものについても、女子中高生が発話しているものはその  
人物のことばとして記録した。